まえがき

本書の著者、**林雄次**と申します。

現在は社会保険労務士（社労士）を中心とした業務を行う士業事務所を運営していますが、数年前までは会社員として働いていました。その会社は、割とハードな働き方として知られており、またＩＴ関連の仕事であったこともあって、当時は時間的な余裕のない毎日でした。でも自分で好きなことをやりたいと考え、当時既に持っていた社労士資格を活かして副業をはじめました。資格取得で身につけた、効率的な時間の使い方などのノウハウも使い、思いのほか順調に進めることができたため、２年ほどの兼業期間を経て、独立し現在に至ります。

仕事で学んだＩＴもフル活用したことで、事務所は順調に拡大。副業として事業をはじめた２０１８年は、顧客数１０社・売上３００万円ほど。それが翌２０１９年には５倍の１５００万円、さらに２０２０年にはもう３倍の４５００万円と大きくなりました。おかげさまで、その後も堅調に進んでいます。その過程では、社労士資格やＩＴ系資格だけでなく、趣味として取得していたいろいろな資格の幅や組合せが役に立ちました。

こうして、士業として仕事をしながら、趣味と実益を兼ねて資格取得も続けるようになりました。当初は「保有資格が１００を超えて３桁になったら話題になるかな」と思って頑張っていたのですが、勢いがつくと止まらなくなるもので、気がついたら**４００**を超えてしまいました（本書発行時点。２４６頁参照）。さすがに自分が持っている資格を覚えきれなくなりつつあるので、少しペースを落とそうかなとすら思っています（笑）。

単に保有資格の数が多いだけではなく、実際に活かしていることもあってか、最近ではメディアに取り上げていただく機会も増えました。昨年頃から、ビジネス系雑誌での資格特集によく載せていただいています。ＮＨＫや民放のラジオで資格のお話をしたり、ウェブメディアでは連載記事を書いていたりします。

ここで、保有資格についても簡単にご紹介しましょう。すべてお話すると分量が大変なことになりますので、かいつまんでご紹介します。

もともと、**ＩＴ**のキャリアが長いこともあり、情報処理技術者試験では最難関と言われるシステム監査技術者、ＩＴストラテジストなど、ほぼすべてに合格しています。

また、本業である**士業**関連は、中小企業診断士、社会保険労務士、行政書士に合格し、

実際の業務にも就いています。

さらに、宅建士をはじめとした**不動産**系の国家資格では、資格学校や企業での講義も行っています。他にも、防災士やＦＰなど、さまざまな資格が日々の生活に役立っています。

これらのように、直接的に役に立つような資格ばかりではありません。**食べ物**や**お酒**に関する資格は、ちょっとした話のネタになります。ソムリエとして料理に合うワインを選べば喜んでもらえるものですし、おにぎり検定や唐揚げ検定などは名刺に記載している資格の中でも注目度が非常に高いです。

なお、私が取得･保有している資格のなかで、最も特筆すべき変わったものが「**僧侶**」資格です。これについては本書の第４章にて、取得の経緯からお話しします。

この本は、忙しい日々のなかで効果的に資格勉強を続けるコツ・心構え・テクニックだけでなく、資格を大量に取得したことで人生がどのように変わったかをお伝えしたいと思い、資格勉強の時間の合間を縫って執筆しました。

資格の合否に直結する勉強法のほか、限られた日々の時間を効率よく過ごす時間術など、資格取得から得られた個人的な経験やノウハウなどを、幅広く皆さんへシェアして

います。特に、資格試験を受ける前のそもそもの**資格の選び方**や、取得後の**活かし方**についてはあまり語られていないと思いますので、ご注目いただけると嬉しいです。

各項目は数ページと短くまとめており、ちょっとしたときに読めるようになっています。また、ジャンルごとにまとめてありますが、どこから読んでも大丈夫です。まずは目次をご覧いただき、興味のあるところから読んでみてください。

本書の内容には、自分の中では意識せずに行動・実践していることも多く、執筆にあたり改めてそれらをアウトプットするのは、意外に難しいものでした。どうにかそれらをひねり出し、なるべく客観的になるよう、エッセンスを抽出したのが本書です。「私だからできる（できた）」ではなく、「**誰にでもできる**」内容となるよう心がけました。

資格取得を目指す方はもちろん、資格を仕事に繋げたい方には、特に本書を読んでいただきたいと思っています。また、士業をはじめとした、資格を使った仕事を既にしている方にも、なんらかのヒントになるはずです。

最後になりますが、本書を手に取っていただいたことに、お礼を申し上げます。興味を持っていただけただけでも、大変嬉しく思います。本書の１００項目の中には、きっ

と毎日に役立つ発見があるはずです。そして、本書を読み終わった後には、今までとは違った資格との関係を築いていけるでしょう。

本書が資格取得に興味のある方の背中を押したり、資格勉強中の方の励みになったりするものであれば、こんなに嬉しいことはありません。

令和5年6月

林　雄次

目次

まえがき……001

第1章 資格を学ぶ前に

資格を使う、考え方

01 そもそも資格を取る理由を意識する……016

02 既存の枠組みから外れてオンリーワンの存在を目指す……018

03 自分の強みを見つける……021

04 「出過ぎた杭」を目指す……024

05 幅広くインプットする……027

06 インプットと日頃の観察で良質なアイデアを出す……030

07 一期一会のチャンスをつかむ……032

08 目標達成前に、次の目標を立てる……033

09 学ぶことは、生きること……034

資格の選び方

10 簡単な資格も役に立つ……037
11 関連資格をまとめて取る……039
12 変わった資格で特徴を出す……041
13 資格の組合せ術「足し算」……043
14 資格の組合せ術「掛け算」……046
15 資格の組合せ術「割り算」……048
16 資格の組合せ術「引き算」……050
17 資格の探し方……052

モチベーション

18 体験談は補正して考える……055
19 ネガティブサーチする……057
20 合格率を気にしない……060
21 わからないのは、当たり前……062
22 まず行動することで、やる気が生まれる……064
23 わざと中途半端でストップする……066
24 「明日から頑張る」では、結果は出ない……068

25 「ちょい足し」で習慣化する……069
26 成果が出るのはゆっくり……071
27 模擬試験の得点を前向きにとらえる……073
28 試験評論家にならない……075
29 自分へのご褒美を有効に使う……076
30 コツや近道だけを探さない……078

第2章 資格学習&取得術

時間術

31 「時間がない」ときはまず、なにかを「やらない」決断をする……082
32 仕事・勉強を生活サイクルの一部にする……084
33 朝に勉強して、午前中にクリエイティブな仕事をする……086
34 午後に定型的な仕事をして、夜はボーナスステージ……090
35 週末の午前に集中する、仕事の合間にリフレッシュする……092

36 使っている時間を記録する……094
37 隙間時間を活かす……097
38 あえて「余白時間」をつくる……099
39 三段階のリフレッシュを意識する……101
40 睡眠にこだわる……103
41 余裕を持って日々過ごせる「3日ひとまとめ法」……105
42 スマホは常にサイレント設定……107
43 自分に合ったタスク管理をする……108

効率的な学習

44 計画が一番大事……110
45 計画は細かくし過ぎず、週単位で……112
46 最初に使う教材は試験問題……114
47 小学生に教えるつもりで学ぶ……116
48 暗記力・記憶力を高めるには……118
49 短時間でも意味はある、むしろ効率アップ！……122
50 不安になっても回答を変えない……124
51 奥の手「見ただけでわかる選択肢」……125

52 得点アップに一番効く方法とは……127
53 見直しのセオリー……129

資格を取った後に

54 資格取得を周囲に知ってもらう……131
55 資格で生まれ変わろうとしない……133
56 資格だけで名乗らない工夫……135
57 資格で開業・独立するには……136
58 資格を使って稼ぐには……139

第3章 資格を仕事にする

士業のあれこれ

59 大量の資格の管理術……141
60 商標登録する……143
61 種をまき続ける……146
62 知識を縦割りで考えず、他分野に応用する……149
63 速さは最大の武器……151

64 見た目を意識する……153
65 名刺を工夫する……155
66 印象を残すノベルティ……158
67 交流会や士業の会に参加する……162
68 自分の時間単価を判断基準にする……163
69 スタッフに任せる……166
70 外注する……168
71 依頼を断る基準を持つ……170
72 値下げを求められたら提供するサービスを減らす……173

情報収集&発信術

73 Googleアラートで情報収集する……176
74 音声入力する……178
75 SNS投稿のマイルールをつくる……180
76 人前で話すときは3つの目線を持つ……184
77 リアルセミナーでは動きと発声に気を使う……186
78 セミナー資料には次に繋がる要素を盛り込む……189
79 オンラインセミナーでも試行錯誤する……191

80 音声配信ではわざとクドい話し方をする……192
81 音声配信だからといって話し過ぎない……196
82 台本を作らない……198
83 文章を書くときは想定読者の姿を思い浮かべる……200
84 作ったコンテンツを使いまわす……201

仕事環境整備術

85 パソコンは3年以内に買い替える……204
86 PCセットアップはマニュアル作成のチャンス……207
87 マルチキャリアを徹底する……209
88 いつでも電源を確保する……211
89 スマホだけで仕事を片付ける……213
90 「自動化サービス」でウェブサービス間のコピペを不要にする……215

第4章 僧侶資格からの学び

91 資格勉強を続けていたら仏教に行きついた……218
92 僧侶になるまでに学ぶこととは……220
93 僧侶になる「得度」とは……224
94 期待しすぎない……226
95 自力と他力……229
96 すべては変化していくもの……231
97 行動の結果としての報い……234
98 ご縁を大事にする……236
99 お釈迦様のように、自分と向き合う……237
100 僧侶になって変わったこと、変わらないこと……239
あとがき……242

第1章

資格を学ぶ前に

資格を使う、考え方

01 そもそも資格を取る理由を意識する

本書のテーマである「資格」について詳しくみる前に、そもそも資格を取る理由・動機について、あらためて考えてみましょう。

私の考える、わざわざ資格取得を目指す最大の理由は、「資格は**第三者認証**だから」です。仕事でも学びでも、多くの場合その結果は、会社や学校の中、つまりクローズな場で評価されます。品評会や競技会など、オープンに評価を受ける場合もありますが、そういった機会に恵まれることはそれほど多くありません。それに対して、資格はオープンな場での

第三者による評価を、自分のタイミングで選んで受けることができます。

私が初めて資格を取ったのは、中学生のときでした。化学部に入っていて理科系への関心が高まっていた当時の私に、顧問の先生が危険物取扱者の資格取得を勧めてくれたのがきっかけです。興味を持っている分野について学ぶことができ、大人に混じって試験を受けて合格した経験は、成功体験として強く印象に残っています。

たとえ何歳になろうとも、誰かに認められることが嫌いだという人はいないでしょう。合格によって一定の知識レベル等を認証する資格の仕組み自体が、私達のモチベーションを上げてくれるはずです。

もう1つ、資格取得の大きな理由・動機づけとして、「**知的好奇心**を満たしてくれる」ということが挙げられます。これは個人的なものかもしれませんが、私にとって、新しいことを知ることができる勉強というのは、基本的に大きな喜びなのです。放っておいたら、いくらでも勉強してしまうかもしれません。

そんな私にとって、さまざまな世界を見せてくれる上に、形を残してくれる資格取得は、最高としか言いようがないわけです。

いま現在、資格勉強をしているという方にも、それぞれに理由があることと思います。例えば会社での評価・報酬アップというのも、立派な理由・動機です。そもそも資格勉強に取り組む理由を意識する（**自分の軸を持つ**）ことが、勉強への意欲に繋がります。

02 既存の枠組みから外れて オンリーワンの存在を目指す

私は社会保険労務士（社労士）として独立する以前、某大手システムインテグレーション企業で、システムエンジニアをしていました。

当時は就職氷河期で、たとえ大手企業であっても、たしかな安定など存在しない時代でした。そのため私は学生のころから、1つの会社に生涯勤め続ける気はありませんでした。就職後も、これからの時代に1人の仕事人として活躍し続けるためにはどうしたら良いのか、模索する日々を過ごしました。数多くの同僚エンジニアがいる会社において、普通のやり方で仕事している限り、同僚でも担える代替可能な仕事しか担当できません。

そこで私は、社内で**オンリーワンの存在**になることを意識して、エンジニアと並行して、社内講師・営業・企画・マーケティングなどのさまざまな仕事にも挑戦しました。

一般にエンジニアといえば、社内でひたすらモニターと向き合っているイメージがあるところですが、私はあえて「外に出ていく」タイプの、自分らしい新たなエンジニア像を目指したのです。その結果、エンジニアの同僚と同列で評価されるフィールドから抜け出すことができ、会社から「この仕事は林に担当させたほうが良い」といわれるような、他にはいないオンリーワンの社員という評価をされるようになりました。

エンジニア時代にたどり着いたこの生存戦略を、士業（社労士や行政書士など）として開業した今もなお、私は意識し続けています。

士業資格の大半は業務独占資格であり、その資格者でなければ、法律に定められた業務を担えません。そのため、プレイヤーの激しい入れ替わりが起きづらい業界構造となっています。外部から見ると、「士業は安定している」とみられがちです。

ですが、法律で業務の枠組みが規定されているからこそ、ひとたびその枠内に入った後は「同一士業がほぼ同質化してしまう」という問題があるのです。

社労士でいえば、労働問題が得意なのか、年金相談が得意なのかは大きな違いですが、業界外から見ればそれも大した違いではありません。大多数の人にとってはどれも同じ「社労士」であり、できることもほぼ一緒だと思われているものです。

そのような士業の業界においても、オンリーワンの存在となり、同業他者と被らず自分らしいフィールドで仕事をしていくため、私は士業以外のスキル（ＩＴやＤＸの知識であったり、まったく異なる分野の資格であったり）の**かけ合わせ**と、その**ＰＲ**を大切にしています。

なお、士業が「既存の枠組みから外れてオンリーワンの存在を目指す」ことには、価格競争に巻き込まれにくくなるというメリットもあります。

他事務所と変わらないサービスしか提供できないでいると、価格でしか差別化できず、いつしか過度な価格競争に巻き込まれてしまうものです。

一方、オンリーワンの存在となることができれば、事前にこちらのスキルやサービスに価値を見出した上での依頼が大半になります。価値に見合った金額であれば、値下げの必要などありません。むしろ、ある程度の金額に設定したほうが、成果を期待してもらえるということもあります。

03 自分の強みを見つける

あなたは、**自分の強み**を把握していますか？

かくいう私自身も、開業当初は全くわかっていませんでした。そもそも、会社員として勤めているときに求められる「強み」と、会社の外で自由にビジネスをするときの「強み」は、全く異なるものです。後者がいわば真の強みなのでしょうが、会社員経験しかない中で、兼業として自分のビジネスを始めた私には、それを探す方法が全くわかりませんでした。

そんな私ですが、兼業としての開業当初、交流会などで知り合って何度かお会いした方から、私の「強み」についてアドバイスをいただいたのです。それは、「林さんのように『デジタルに詳しい』と『社労士』を両立している人は、いないのではないですか？」というものでした。たしかに、エンジニア兼コンサルタントとして大卒で入社して以来ずっとITに関わっている経験と、アナログな印象が強い士業を両立しているのは珍しいとはいえ

るでしょうが、当時の私には、このアドバイスは正直あまり響きませんでした。

かといって、他に特にアピールできる材料もなかったので、半信半疑ながら「デジタルに詳しい社労士」と言い始めました。この時点での私の認識としては、「こんな組合せ、はたして興味を持つ人などいるのだろうか?」という程度で、全くピンときていませんでした。

ところが、これを言い始めてみたところ、それまでどこからも見向きもされなかった状態とは大違い。世の中から大いに興味を持っていただけるようになり、どんどん仕事が増えていきました。

今では「デジタル士業®」として、この点を前面に押し出すまでになりました。

当時の私自身にとって、デジタルに詳しいというのは、あまりに当たり前な感覚だったのです。息を吸うように、意識すらしない（意識できない、が一層近いかもしれません）ことにこそ、**真の強み**があります。他人には大変なことが、意識せずにできる。それこそが、真の強みなのです。

著者略歴

林 雄次

１９８０年生まれ、東京都足立区出身。筑波大学附属高校卒業後、社会福祉を志し、淑徳大学にて社会福祉を学び社会福祉士の資格を取得。
卒業後はＩＴを通じて多くの方に役立つべくＩＴ関連企業で１０００社以上の中小企業の業務改善に従事。
エンジニア教育の講師として多くの資格取得を経て、社労士・行政書士として「はやし総合支援事務所」開業。
本業では、中小企業診断士、社労士、行政書士、情報処理安全確保支援士等として企業向け支援を行いつつ、保有資格・検定は４００を超え、「資格ソムリエ」としてさまざまなメディアで活躍中。

日本パラリンピック委員会 ハイパフォーマンスマネジメントチーム 情報・科学スタッフ
東京都社会保険労務士会 デジタル・ＩＴ化推進特別委員